

第3回北海道電力七飯発電所の漏水に伴う現地営農支援対策本部会議 次第

日 時 令和5年11月10日（金）14時00分

場 所 渡島総合振興局3階講堂

1 開 会 北海道渡島総合振興局産業振興部長 本阿彌 俊治

2 開会挨拶 北海道渡島総合振興局副局長 西本 研一

3 内 容

(1) かんがい放流設備設備の復旧方針について

(2) 令和5年産水稻の生育状況等について

(3) その他

4 閉会挨拶 北海道農政部農村振興局施設管理課長 川畑 恭章

北海道電力七飯発電所の漏水に伴う現地営農支援対策本部会議(3回目)出席者名簿

日時：令和5年11月10日(金) 14:00～

場所：渡島総合振興局合同庁舎3階講堂

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
北海道開発局函館開発建設部	港空農水担当次長	日色 徳彦	
北海道開発局函館開発建設部	公物管理課長	長谷川 寿	
北海道農政事務所函館地域拠点	地方参事官	池田 利男	
北海道農政事務所函館地域拠点	総括統計専門官	的場 正文	
北海道農政事務所函館地域拠点	主任農政推進官	高見 尚男	
函館市	農林水産部次長	鹿磯 純志	
函館市	農務課長	石岡 正直	
北斗市	経済部長	楠川 修	
七飯町	農林水産課長	村上 宏樹	
七飯町	農業委員会事務局長	赤石 旭	
七飯町	農林水産課農水振興係長	手塚 晃佑	
七飯町	農林水産課農林施設整備係長	三浦 直之	
北海道電力株式会社	取締役 常務執行役員	原田 憲朗	
北海道電力株式会社	水力部長	山田 実	
北海道電力株式会社函館水力センター	所 長	打合 優至	
北海道電力株式会社総務部	立地室火力・水力グループ担当課長	富永 展彰	
北海道電力株式会社広報部	広報企画グループ副主幹□	岡田 昇大	
北海道電力株式会社函館水力センター	発電課長	岡山 天丞	
北海道農業協同組合中央会札幌支所	主査	小林 直弘	
ホクレン農業協同組合函館支所	営農支援室長兼次長	駒形 剛	
ホクレン農業協同組合函館支所	米穀課長	大谷 一太郎	
新函館農業協同組合生産販売部	主査	堤 元貴	
新函館農業協同組合北斗営農センター	副営農センター長	関 司	
函館市亀田農業協同組合	営農部長	真倉 誠司	
函館市亀田農業協同組合	販売係	高橋 亮	

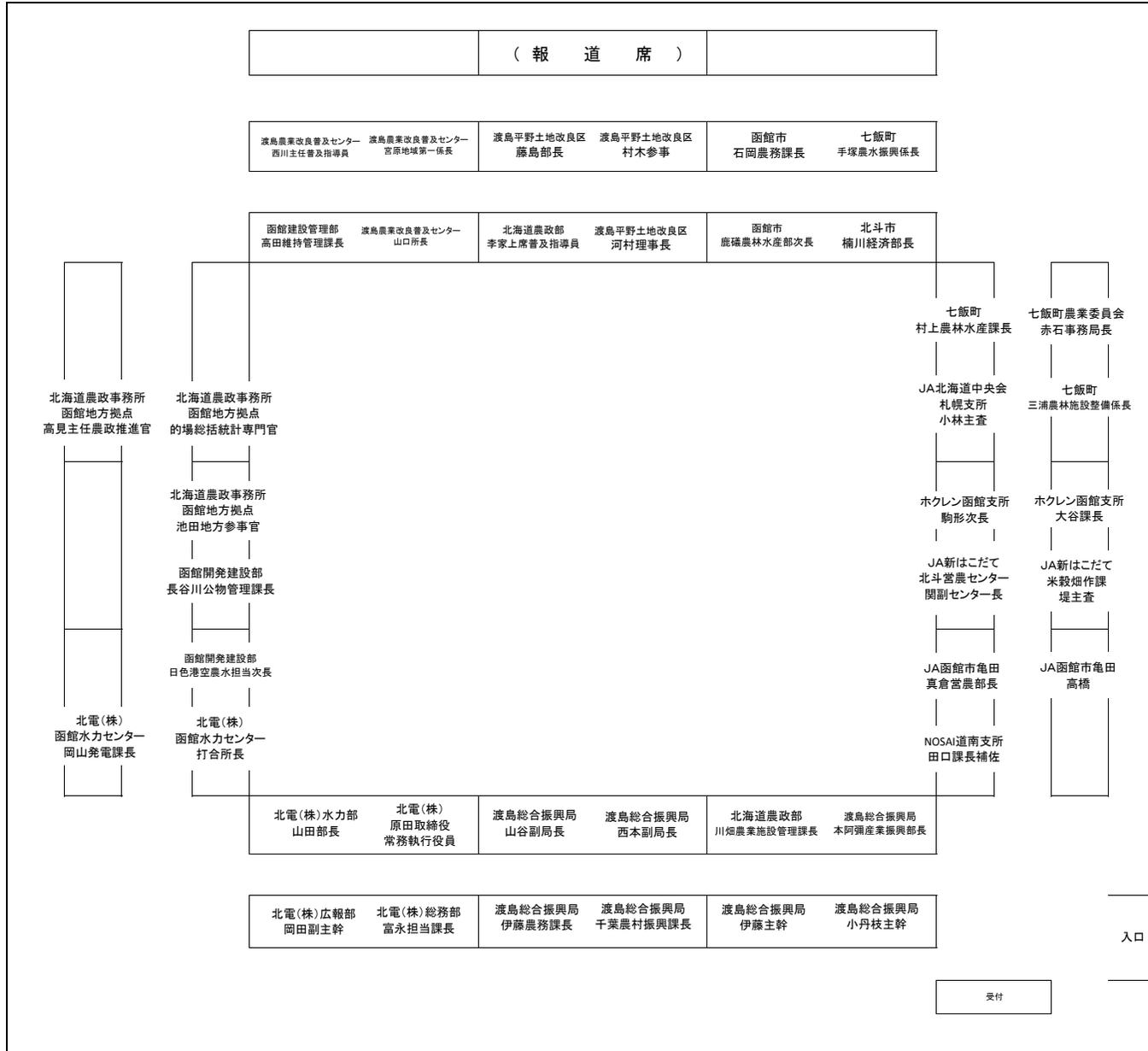
北海道電力七飯発電所の漏水に伴う現地営農支援対策本部会議(3回目)出席者名簿

日時：令和5年11月10日(金) 14:00～

場所：渡島総合振興局合同庁舎3階講堂

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
北海道農業共済組合 みなみ統括センター道南支所	課長補佐	田口 詠士	
渡島平野土地改良区	理事長	河村 康英	
渡島平野土地改良区	参 事	村木 直樹	
渡島平野土地改良区	総務部長	藤島 健	
北海道農政部農村振興局	農業施設管理課長	川畑 恭章	
北海道農政部生産振興局技術普及課(道南農試駐在)	上席普及指導員	李家 眞理	
北海道渡島総合振興局	副局長	西本 研一	
北海道渡島総合振興局	副局長	山谷 公二	
北海道渡島総合振興局	産業振興部長	本阿彌 俊治	
北海道渡島総合振興局	渡島農業改良普及センター所長	山口 和彦	
北海道渡島総合振興局	主任普及指導員	西川 智子	
北海道渡島総合振興局	地域第一係長	宮原 大助	
北海道渡島総合振興局函館建設管理部	維持管理課長	高田 健志	
北海道渡島総合振興局産業振興部	農務課長	伊藤 二郎	
北海道渡島総合振興局産業振興部	農村振興課長	千葉 清人	
北海道渡島総合振興局産業振興部	農村振興課主幹	伊藤 尚	
北海道渡島総合振興局産業振興部	農村振興課主幹	小丹枝 基範	
		42人	

座席表

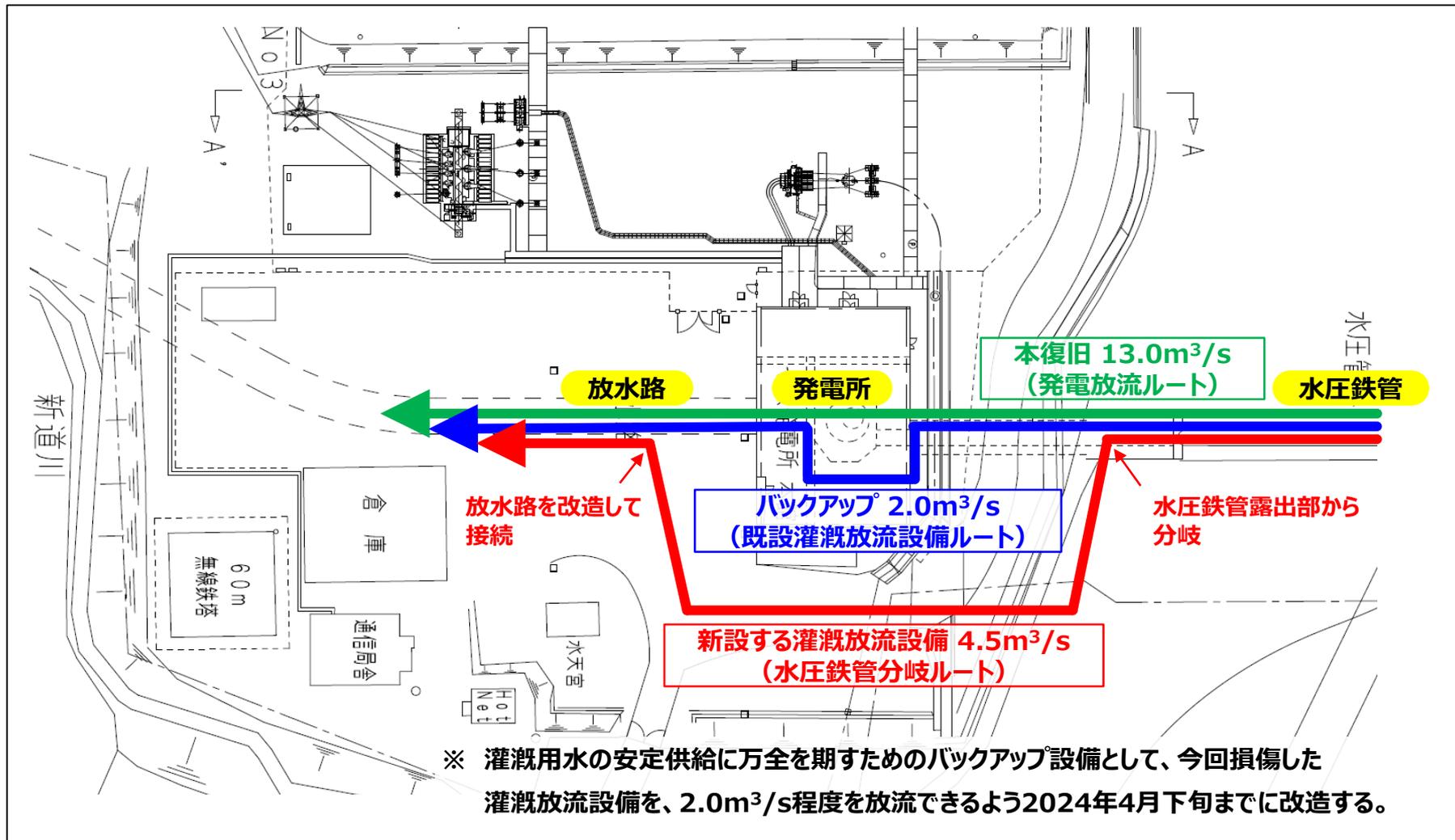


七飯発電所 灌漑放流設備の復旧について

2023年11月10日
北海道電力株式会社

- 灌漑放流設備は、発電停止時における最大放流量（ $4.5\text{m}^3/\text{s}$ ）を放流できる、水圧鉄管から分岐するルートとし、**2024年4月下旬までに新設**する。
- また、灌漑用水の安定供給に万全を期すためのバックアップ設備として、今回損傷した灌漑放流設備を、 $2.0\text{m}^3/\text{s}$ 程度を放流できるように**2024年4月下旬までに改造**する。
- 更に、応急対策の一部（調圧水槽からのポンプアップ、水圧鉄管からの分岐（3条）など）も活用し、 $4.5\text{m}^3/\text{s}$ の放流量を確保する。
- 本復旧（発電放流ルート）は、水車発電機更新が完了し、発電放流による灌漑放流が可能となる**2026年4月に完了予定**。

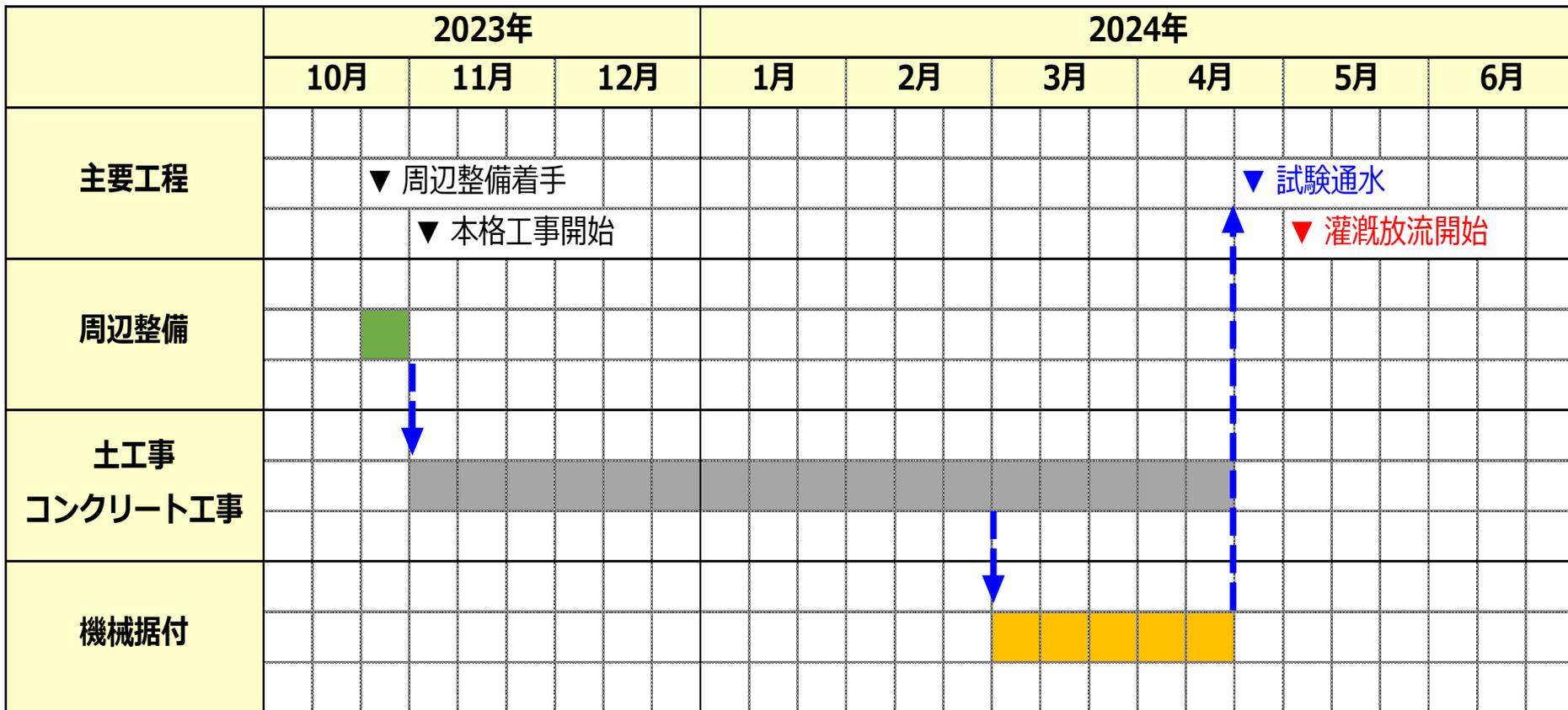
灌漑放流設備 ルート図



灌漑放流設備復旧 イメージ図



灌漑放流設備復旧 工程

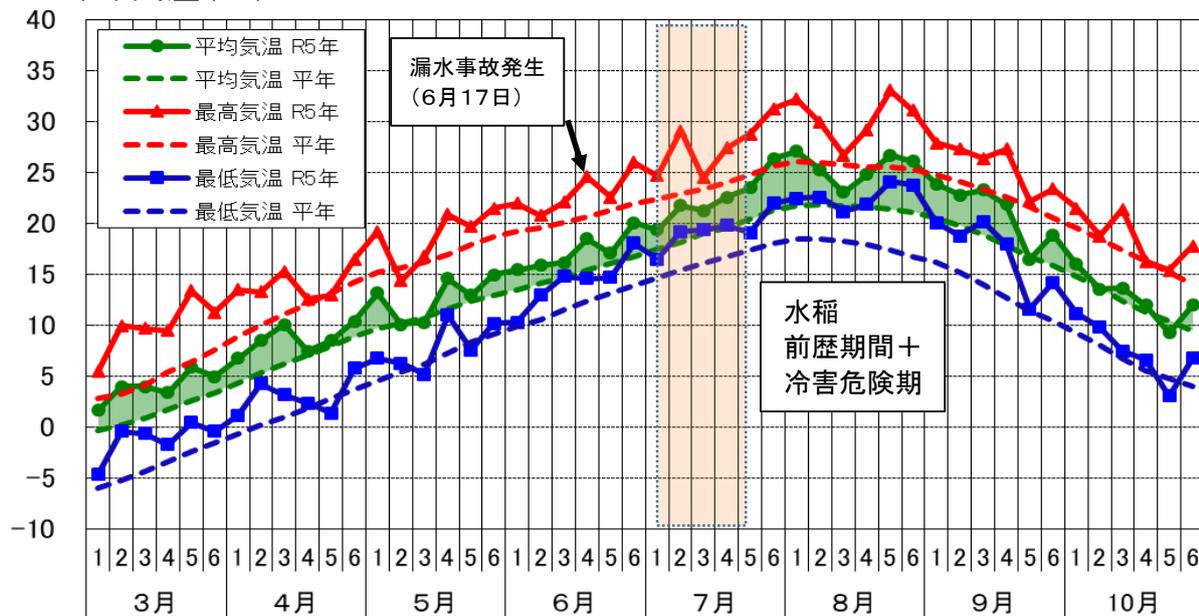


令和5年北斗市の気象経過について

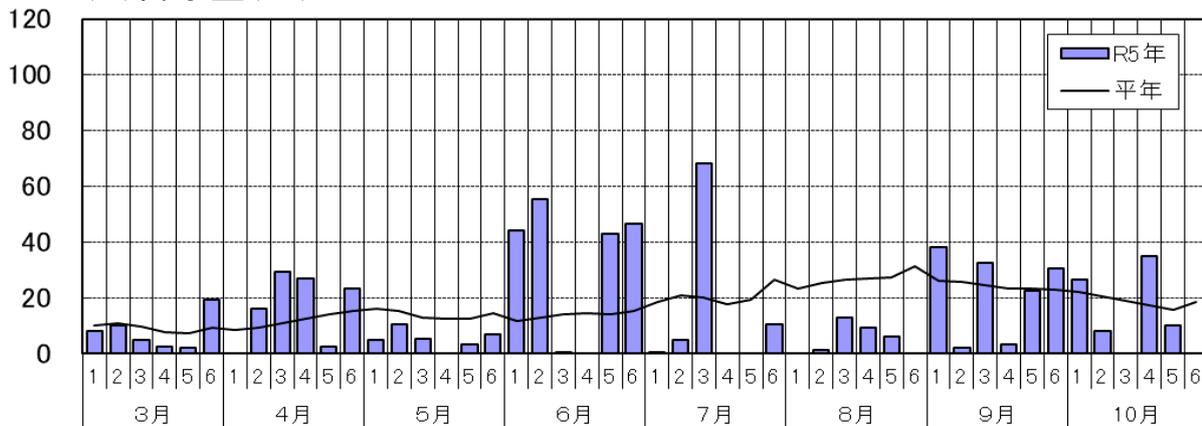
令和5年(2023年)11月10日
渡島総合振興局農務課

2 気象の推移

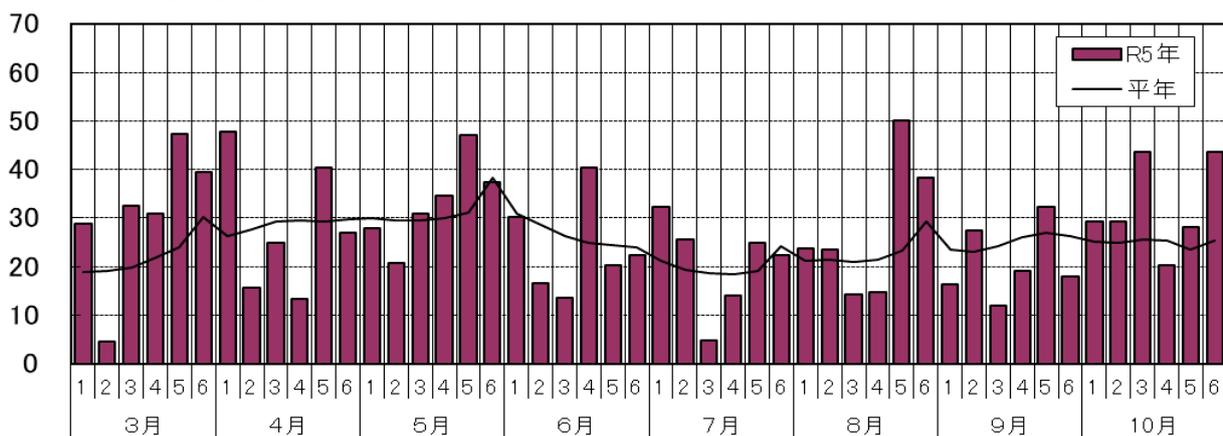
(1) 気温(°C)



(2) 降水量(mm)



(3) 日照時間(hr)



令和 5 年（2023年産）水稻の生育経過について（渡島管内）

区 分	生育経過
1 融雪期から 本田耕起まで	<p>函館の根雪終日は、3月6日（早7日）で平年より早かった。このため、融雪後のほ場乾燥が進み、耕起盛期は5月6日（早2日）で平年よりやや早くなった。</p>
2 育苗期間	<p>は種作業は平年並に行われ、出芽期も平年並の4月30日（遅1日）となった。育苗期間中は好天で経過し、移植時の苗質も平年並を確保した。</p>
3 移植から幼 穂形成期まで	<p>移植作業は、移植始5月22日（±0日）、移植期5月25日（早1日）、移植終5月30日（±0日）となり、活着期も5月30日（±0日）で平年並であった。</p> <p>6月上旬は日照不足気味であったが、生育への影響は小さく、分けつ始は平年並の6月8日（±0日）で、6月15日現在の茎数は207本/m²（平年比98%）と平年並を確保した。6月中旬からは多照で経過したこともあり、その後の分けつ発生も順調で、7月1日現在の茎数は583本/m²（平年比100%）となった。</p>
4 幼穂形成期 から出穂まで	<p>幼穂形成期は、7月4日（+2日）と平年よりやや早かった。前歴期間（7月1半旬～7月3半旬頃）及び冷害危険期（7月3半旬～5半旬頃）の気温は平年以上だったことから、稔実への影響はなかった。</p> <p>7月中旬は曇雨天日が多かったが、総じて高温であったため生育は進み、出穂期は7月27日（+5日）と早かった。また、幼穂形成期前に確保した分けつが主であったことから、穂揃い性は良好となった。</p>
5 登熟期間	<p>出穂後は8月中旬の台風7号の本道接近により各地で倒伏が発生し、その後も風雨の度に倒伏面積が拡大した。</p> <p>8月中旬以降も記録的な高温で推移したため、登熟は進み、成熟期は9月8日（早10日）と早かった。収穫作業も早く、収穫始は9月11日（早10日）、収穫期は9月25日（早5日）、収穫終は10月2日（早7日）となった。</p>



作物統計調査

令和5年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（北海道）

— 作況指数は104の見込み —

【調査結果の概要】

- 1 北海道における令和5年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は10万1,700 haで、うち主食用作付面積は8万2,200 haが見込まれる。
- 2 9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量は582 kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は104が見込まれる。

図 作柄表示地帯別作況指数及び10a当たり予想収量（9月25日現在）

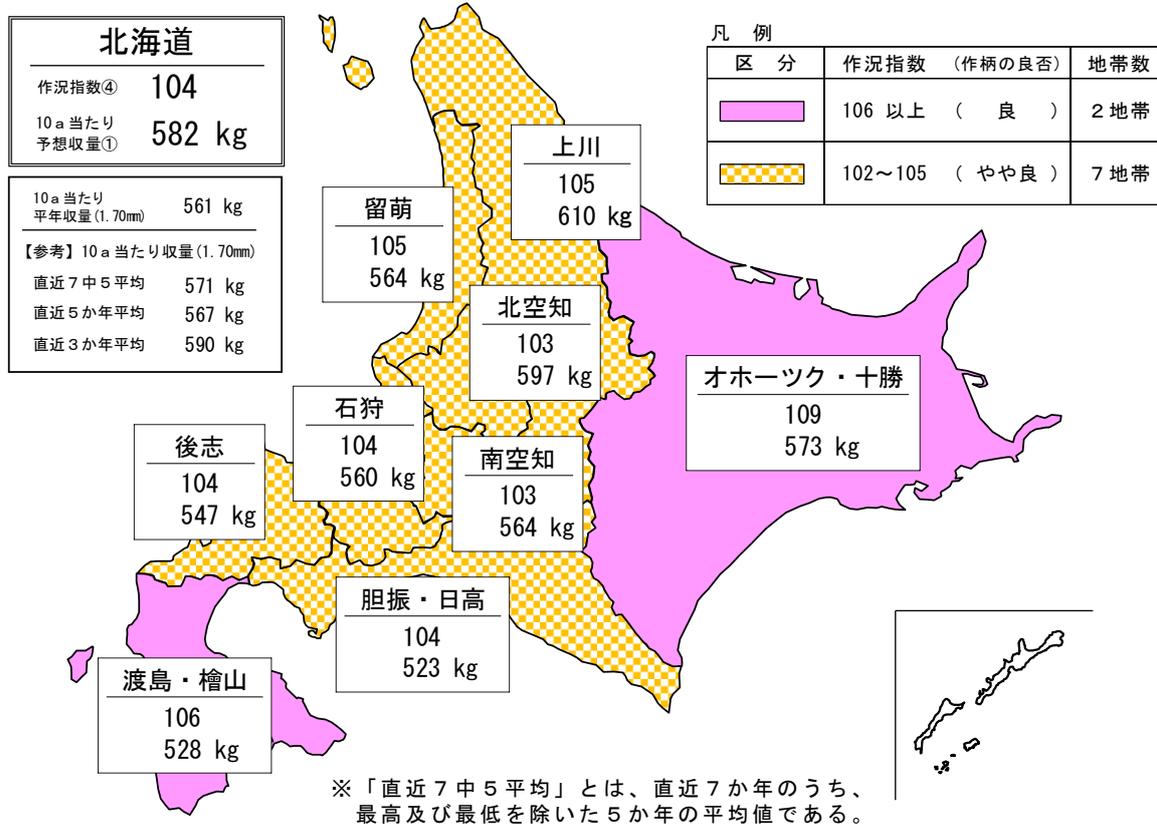


表1 令和5年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び予想収穫量（9月25日現在）

区分	作付面積 (青刈り面積を含む。)			10a当たり 予想収量 (1.70mm) ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別 (1.90mm)			主食用 作付面積 ⑤	予想収穫量 (主食用) (1.70mm) ⑥=①×⑤
	実数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③		
		対差	対比						
北海道	101,700 ha	200 ha	100 %	582 kg	559 kg	535 kg	104	82,200 ha	478,400 t

- 注：1 ①10a当たり予想収量及び⑥予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である(上図において同じ。)
- 2 農家等が使用しているふるい目幅で選別した②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅(1.90mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 3 ⑤主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積(9月15日時点)を除いた面積(見込み)である。

本資料の北海道農政事務所ホームページの掲載案内は10ページを御覧ください。

【調査結果】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は10万1,700haで、前年産に比べ200ha増加した。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は8万2,200haで、前年産に比べ300haの減少が見込まれる。

2 作柄概況

- (1) 全もみ数は「やや多い」となった。これは、田植期以降、6月上旬に日照不足となったものの、以降はおおむね高温・多照で経過したことから、分けつが順調に進み穂数が「やや多い」となったためである。
- (2) 登熟は「やや良」が見込まれる。これは、出穂期以降、高温傾向が続いたことにより、粒の肥大・充実が平年を上回ると見込まれるためである。
- (3) この結果、10a当たり予想収量は582kg（前年産に比べ9kg減少）が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は104が見込まれる。

表2 令和5年産水稻の作付面積及び10a当たり予想収量（9月25日現在）
（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	作付面積 (青刈り面積を含む。)			10a当たり 予想収量 (1.70mm)				平 年 比 較			
	実数	前年産との比較		10a 当 た り 予 想 収 量 ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別(1.90mm)			穂 の 多 少	1穂当 たりも み数 の多 少	全もみ 数の多 少	登 熟 の良 否
		対差	対比		10a 当 た り 予 想 収 量 ②	10a 当 た り 平 年 収 量 ③	作況 指数 ④=②/③				
	ha	ha	%	kg	kg	kg					
北海道	101,700	200	100	582	559	535	104	やや多い	平年並み	やや多い	やや良
石 狩	7,030	90	101	560	539	517	104	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
南 空 知	18,300	400	102	564	540	523	103	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
北 空 知	26,500	△ 100	100	597	574	558	103	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
上 川	28,400	0	100	610	587	559	105	やや多い	平年並み	やや多い	やや良
留 萌	4,070	10	100	564	540	513	105	平年並み	やや少ない	平年並み	良
渡島・檜山	6,910	0	100	528	493	463	106	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
後 志	4,960	△ 30	99	547	529	508	104	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
胆振・日高	4,750	△ 30	99	523	503	484	104	やや少ない	やや少ない	やや少ない	良
オホーツク・十勝	895	△ 26	97	573	537	492	109	平年並み	やや多い	平年並み	良

- 注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 2 農家等が使用しているふるい目幅で選別した②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 3 作付面積（青刈り面積を含む。）については、四捨五入の関係で合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

表3 令和5年産水稻の田植期、出穂期及び刈取済面積割合（9月25日現在）

北海道・ 作柄表示地帯	田 植 期					出 穂 期					刈取済 面積 割合
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差	
	月 日	月 日	月 日			月 日	月 日	月 日			%
北 海 道	5. 18	5. 22	5. 30	1日早	1日早	7. 20	7. 24	7. 31	6日早	4日早	75
石 狩	5. 16	5. 22	5. 30	1日早	1日早	7. 20	7. 27	8. 1	5日早	4日早	90
南 空 知	5. 16	5. 21	5. 26	並 み	並 み	7. 20	7. 24	7. 30	7日早	6日早	98
北 空 知	5. 17	5. 21	5. 28	1日早	並 み	7. 19	7. 22	7. 28	5日早	3日早	70
上 川	5. 17	5. 22	5. 30	1日早	並 み	7. 18	7. 23	7. 31	4日早	2日早	65
留 萌	5. 16	5. 21	5. 27	1日早	並 み	7. 21	7. 26	8. 1	4日早	2日早	70
渡 島 ・ 檜 山	5. 20	5. 25	6. 2	2日早	1日早	7. 21	7. 25	8. 3	7日早	6日早	60
後 志	5. 18	5. 22	5. 30	1日早	並 み	7. 21	7. 24	7. 31	5日早	5日早	90
胆 振 ・ 日 高	5. 19	5. 24	5. 31	1日早	並 み	7. 24	7. 27	8. 1	5日早	4日早	60
オホーツク・十勝	5. 21	5. 27	6. 2	並 み	並 み	7. 20	7. 25	7. 31	5日早	6日早	90

注： 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植え及び出穂の面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【累年データ】

表4 水稻の年次別推移（北海道）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成 26 年産	112,100	111,000	577	640,500	103,500	597,200	107
27	110,500	107,800	559	602,600	100,100	559,600	104
28	108,300	105,000	551	578,600	99,000	545,500	102
29	106,900	103,900	560	581,800	98,600	552,200	103
30	106,400	104,000	495	514,800	98,900	489,600	90
令和 元	105,600	103,000	571	588,100	97,000	553,900	104
2	104,700	102,300	581	594,400	95,300	553,700	106
3	103,300	96,100	597	573,700	88,400	527,700	108
4	101,500	93,600	591	553,200	82,500	487,600	106
5 (概数値)	101,700	..	582	..	82,200	478,400	104

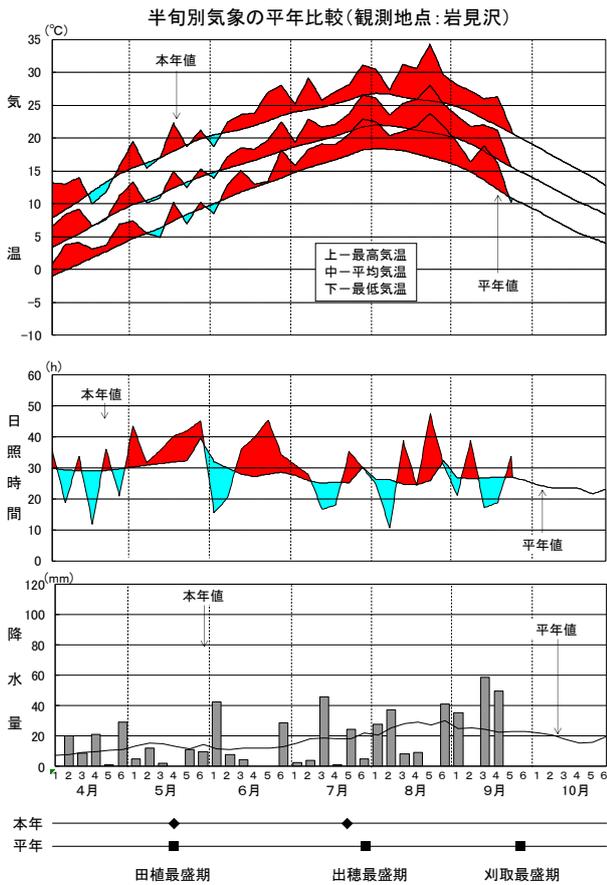
資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』

- 1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前の作況指数は1.70mm のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 5 表中の「..」は、未発表であることを示している。

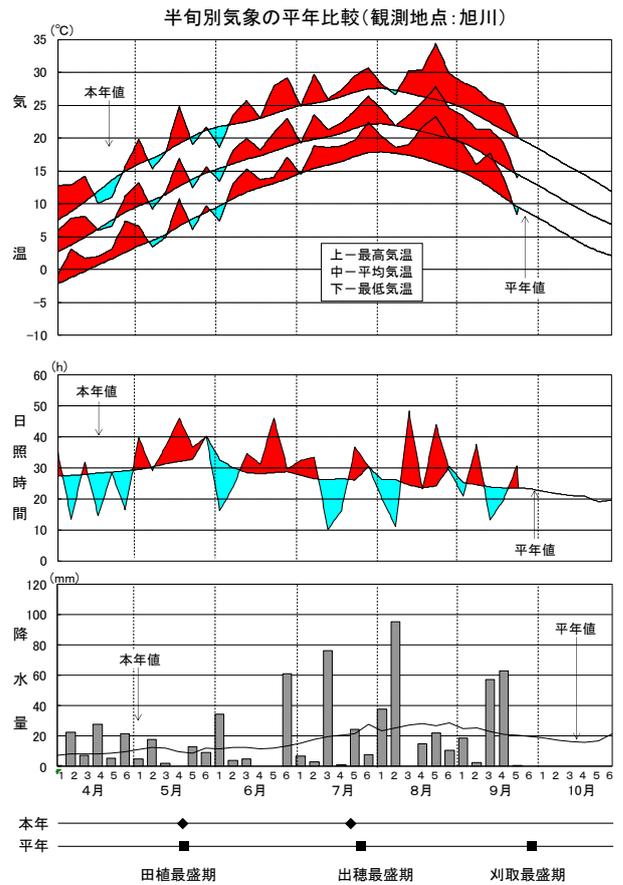
【気象経過】

半旬別気象経過と生育ステージ

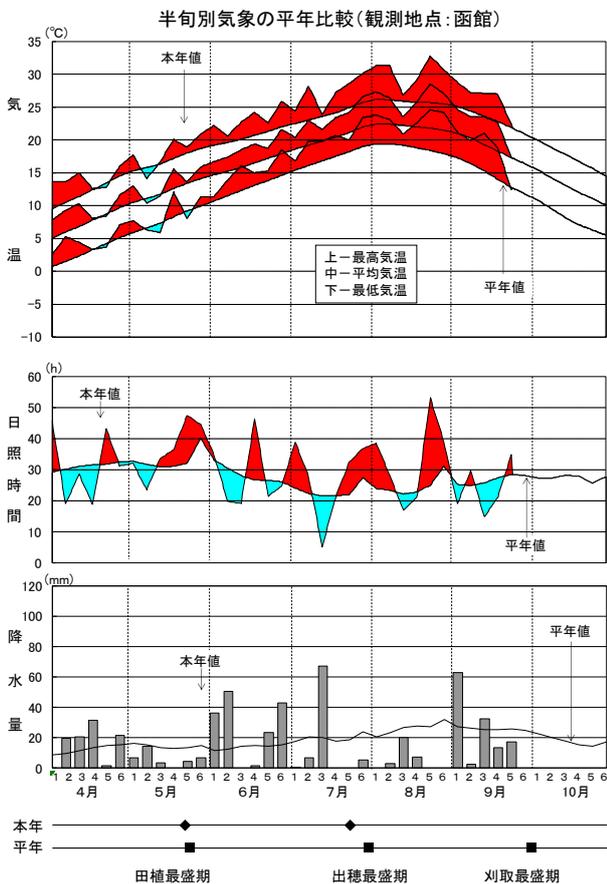
南空知



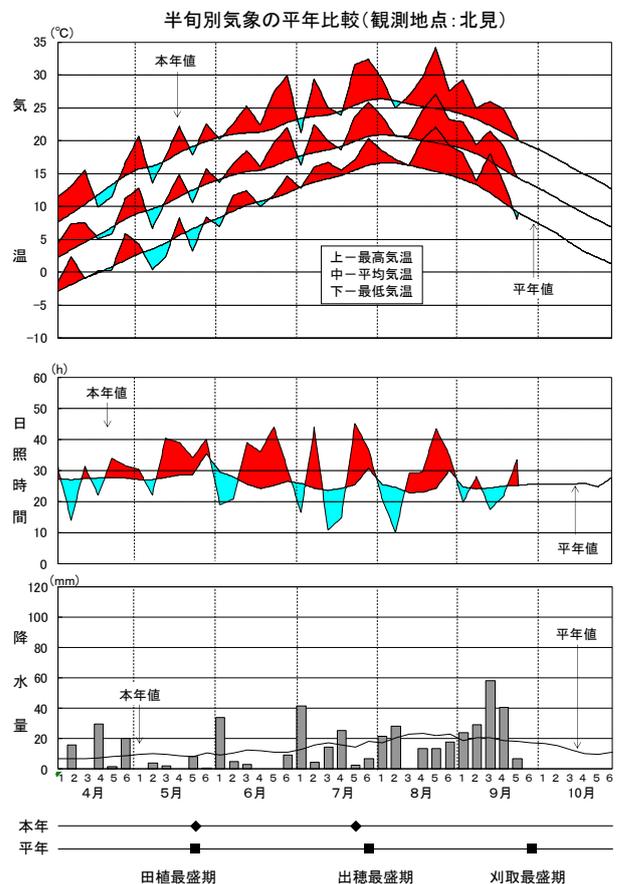
上川



渡島・檜山



オホーツク・十勝

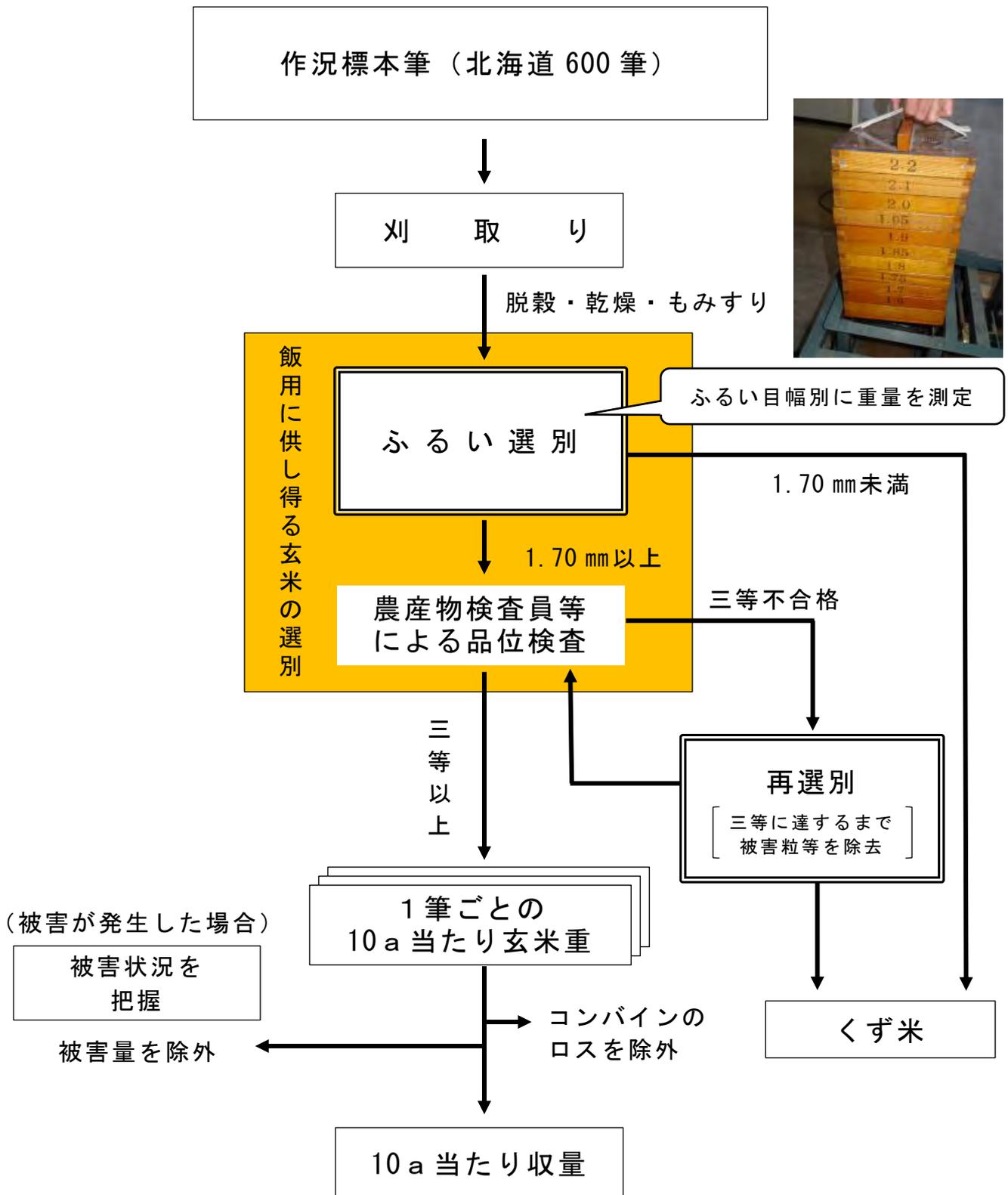


資料：気象庁のアメダスデータを基に、北海道農政事務所で作成。

【参考 1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm 以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

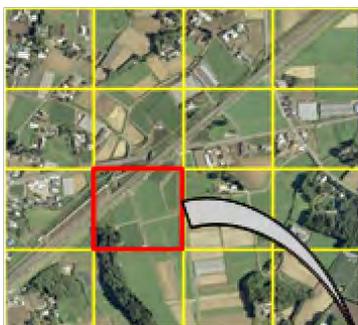


【参考 2】

作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、北海道の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北海道で600筆）調査している。

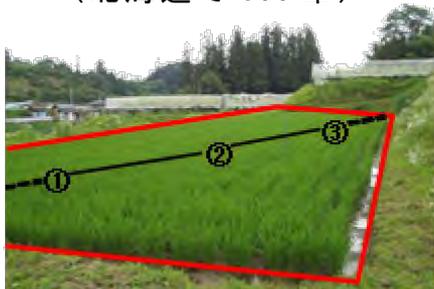
北海道すべての土地
（母集団）



標本単位区
（400m四方の土地）



作況標本筆
（北海道で600筆）



- 1 北海道のすべての土地を 400m 四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。
- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。
- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1 m²（合計3 m²）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び予想収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量等を明らかにすることにより、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証、経営所得安定対策の交付金算定、農作物共済事業の適切な運営等のための農政の基礎資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、北海道を対象に実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 予想収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

標本単位区：1,591 単位区

イ 予想収穫量調査

作況標本筆：600 筆 作況基準筆：20 筆

3 調査事項

水稻の作付面積、10a 当たり予想収量、予想収穫量（9月25日現在）、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和5年7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：令和5年9月25日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/> 】

(2) 予想収穫量調査

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/ 】

6 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯は、次表のとおりである。

作柄表示地帯	対 象 地 域
石 狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内の町村
南 空 知	夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北 空 知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町
上 川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内の町村、宗谷総合振興局管内の町村
留 萌	留萌市、留萌振興局管内の町村
渡 島 ・ 檜 山	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内の町、檜山振興局管内の町
後 志	小樽市、後志総合振興局管内の町村
胆 振 ・ 日 高	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内の町、日高振興局管内の町
オホーツク・十勝	釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内の町村、十勝総合振興局管内の町村、釧路総合振興局管内の町村、根室振興局管内の町

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する 10 a 当たり予想収量の比率である。
 なお、平成 26 年産以前の作況指数は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成 27 年産から令和元年産までの作況指数は、過去 5 か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでの目幅 (1.85mm) 以上に選別された玄米を基に算出していた。令和 2 年産以降の作況指数は、過去 5 か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅 (1.90mm) 以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される 10 a 当たり収量をいう。

8 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前 (原数)	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値 (統計数値)	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は次のとおりである。
 「0」：増減がないもの
 「…」：未発表であるもの
 「△」：負数又は減少したもの
- (3) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和 5 年産水稻の作付面積及び 9 月 25 日現在の予想収穫量 (北海道)」(北海道農政事務所)による旨を記載してください。

9 その他

- (1) この資料のうち、作付面積は、概数値である。
- (2) 本調査 (9 月 25 日現在) は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページの中の「農林水産統計公表資料」で御覧いただけます。

「農林水産統計公表資料」

【 <https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/> 】



「北海道の気象と作柄」

【 https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/seisan/kisyo_sakugara/ 】



お問合せ先

- ◎本統計調査結果について
農林水産省 北海道農政事務所 統計部
生産流通消費統計課
電 話：011-330-8820
- ◎農林水産統計全般について
農林水産省 北海道農政事務所 統計部
統計企画課
電 話：011-330-8818



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



令和5年11月1日現在で、2023年漁業センサスを実施します。
(流通加工調査については令和6年1月1日現在)

令和 5 年 1 1 月 1 0 日
 ホクレン農業協同組合連合会
 函館支所

令和 5 年産米の入庫・品質状況について

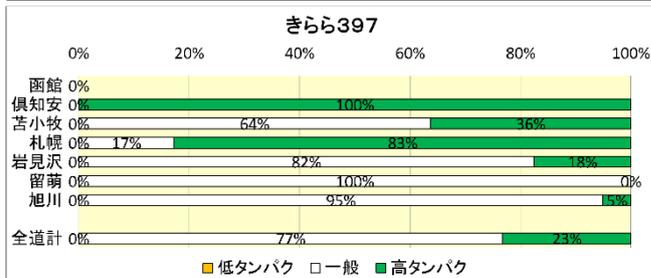
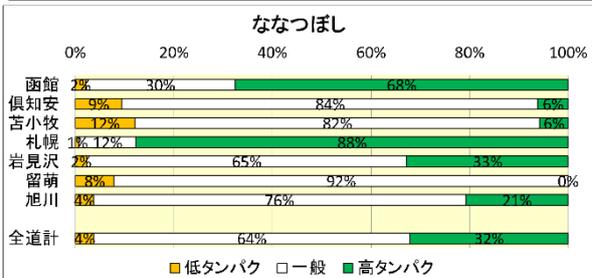
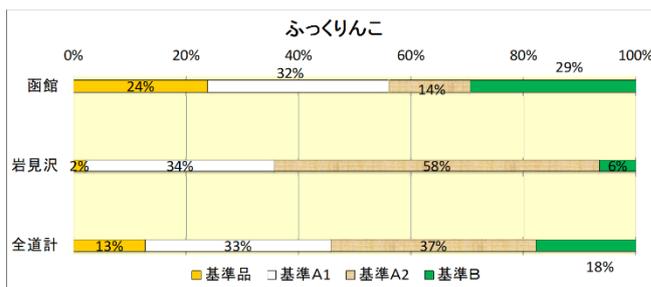
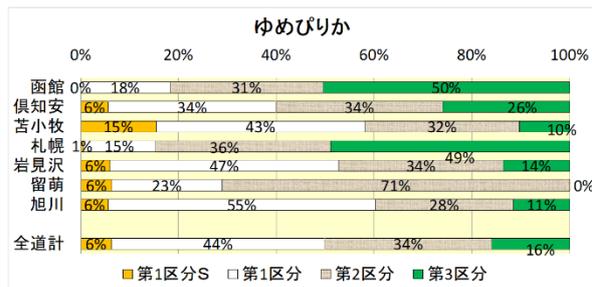
1. 令和 5 年産米入庫実績（うるち米）

令和 5 年 11 月 6 日現在

エリア	制度	入庫進捗	等級比率		
			1 等	2 等	3 等
全道	主食用	55%	98.7%	1.2%	0.1%
	加工用	39%	91.6%	7.4%	1.0%
	政府備蓄	73%	85.5%	14.5%	0.0%
	新規需要	81%	26.9%	0.0%	0.3%
道南	主食用	41%	92.8%	7.2%	0.0%
	加工用	20%	91.5%	5.7%	2.9%
	政府備蓄	4%	100.0%	0.0%	0.0%
	新規需要	100%	55.5%	0.0%	2.3%

※白未熟粒の発生量が多いため、これらを加工用米・政府備蓄米等へ 2 等米を入庫する動きが出ている。

2. 令和 5 年産米タンパク別入庫比率



※令和 3～4 年産米の「ふっくりんこ」・「ゆめぴりか」の基準品出荷率について、共に 9 割程度の水準だったが、本年度は大きく低下している。 以上